

4年産の転換目標3.9万haに対し、残り約2万ha 6月末まで、さらに転換に取り組む(農水省)

自民党は先月末、「農業基本政策検討委員会(小野寺五典委員長)」を開き、米政策の進捗状況について、農水省、全中・全農などから報告を受けた。

農水省農産局の平形局長は主食用米等の需給見通しについて、「3年6月末の民間在庫は218万トン、3年産の主食用米等生産量は701万トン(作況101)だった。これに対し、4年産の生産目標は675万トンで、3年産が作況100だった場合の696万トンから21万トン(3%)作付転換できれば、来年の6月末在庫が200万トンを切る水準になる」と説明。4年産では21万トン(約3.9万ha)の作付転換を目指していると強調した。

また、新市場開拓に向けた水田リノベーション事業の採択結果について、「3月9日まで要望調査を実施したところ、農業者に対する低コスト生産等の取組支援(補正及び当初の合計予算額430億円)に対し、合計435億円の要望があった。この事業は、低コスト生産等の取組面積・割合や、主食用米の削減面積・割合等に応じたポイント付けを行い、品目毎・地域協議会毎にポイントの高い順に採択するもので、審査の結果、採択見込みの459協議会で合計▲2.2万ha(対前年比)の主食用作付面積の削減が約束されている」としたうえで、「3.9万haのうち、2.2万haはリノベーション事業の関連で転換できる見込みだが、まだ半分程度残りがあるので、6月末の営農計画書締め切りまで取り組んでいきたい」と述べた。

対象品目毎の採択額・採択率は下表の通りで、採択率は94%~100%。加工用米は93億円で昨年とほぼ同額だが、昨年度の助成単価(4万円/10a)が水田活用交付金の通常単価よりも高く、リノベ事業の支援を受けていない場合でも、実需者との交渉時に価格引き下げを求められる等の課題があったとの声を踏まえて、助成単価が3万円(同)に引き下げられている。採択率も98%となったため、取組面積としては昨年より増えた形。また、麦、大豆の採択額も昨年より倍増している。

最後に小野寺委員長は「米はまだ余剰感がある。主食用米からの転換はかなり進んでいるが、目標にはまだ2万ha足りないという状況も明らかになった。連休明けには新しい作付動向や、水田活用の調査もまとまるということなので、またご意見を賜りたい」と、委員会を締めくくった。

新市場開拓に向けた水田リノベーション事業採択結果

<対象品目毎の採択額・採択率>

[R3補正+R4当初]

対象品目	新市場 開拓用米	子実用 とうもろこし	加工用米 ※1	麦	大豆	高収益 作物	計 ※2
採択額	22億円	5億円	93億円	187億円	113億円	10億円	430億円
採択率	100%	100%	98%	99%	99%	94%	99%

(※1) R2補正における単価は4万円/10a

(※2) 地域協議会等の推進事務費0.8億円を含む

(参考)[R2補正]

採択額	19億円		94億円	94億円	52億円	10億円	268億円
採択率	100%		68%	45%	58%	100%	58%

要望が品目毎の優先枠の範囲内のため、全ての要望について採択

低コスト生産の取組や主食用米作付面積の削減面積等に応じたポイントの高い地域協議会から採択

【採択審査の評価指標】

① 低コスト生産等の『取組面積』又は『前年度からの増加割合』

② 令和3年産から令和4年産に向けた主食用米の作付の『削減面積』又は『削減割合』

③ 令和4年産のリノベ対象品目の『作付面積』又は『前年度からの増加割合』等

17県で追加払い・追加精算を実施(全農)

自民党が4月28日に開いた農業基本政策検討委員会(小野寺五典委員長)には、全中の馬場利彦専務理事、全農の高尾雅之常務理事が出席、それぞれ情勢報告を行った。

全中の馬場専務は「昨年は水田リノベーション事業の拡充や、コロナ特別枠などの対策を措置して頂いた。特に2年産米のコロナ特別枠は投げ売りを防ぎ、計画的な市場への流通を進めることができた。ただ、需要動向や在庫にはまだ心配な部分があり、課題は4年産米の作付転換になる」との認識を示した。

また、全農の高尾雅之常務理事は「3年産米は周年事業の拡充や特別枠の措置等により、210万トン強の販売計画に対し、契約は200万トン程度まで進んでいる。残り10万トンについては今後、販売先を探すことになる。この結果、宮城以南の17県で追加払い、あるいは追加精算を実施することができた。古米を含めた販売は前年同期を上回っているが、3年産米は前年対比96%で推移している。ただ、全農系統の価格については1月に底を打ち、3月末では105%と上向いている」と報告。また、葉梨康弘議員(衆議院・茨城3区)から質問を受け、追加払いの実施県を「宮城、神奈川、新潟、富山、福井、岐阜、島根、香川、高知、佐賀、鹿児島」、追加精算(買取を含む)の実施県を「群馬、千葉、長野、兵庫、長崎、大分」と説明した。

宮城ひとめ続伸、関東コシも下値切り上げ(4月の市中取引)

主食うるち米の市中取引はGW前に売り一巡。東北ひとめぼれや関東コシヒカリ、東北・関東B銘柄などが下値を切り上げる一方、荷動きが鈍くなった高額銘柄や西日本銘柄の調整売りが散見され、3月と同様に上げ下げが混在する展開となった。まん延防止等重点措置が解除され、業務用米の需要傾向がみられるものの、持ち越し古米と同時進行での販売を余儀なくされ、市況回復は一気に進んでいない。

銘柄別では、東北ひとめぼれが200~400円高と続伸したほか、福島・関東コシヒカリも当面の壁となっていた1等産地置場1万0,000円の大台に乗せた。東北・関東B銘柄も新規売りが少なく、下値切り上げた。新潟一般コシヒカリは調整売りが一巡して、200円値戻しの格好だが、勢いはみられない。

一方、高額銘柄は荷動きが鈍い。新潟魚沼コシヒカリが続落したほか、山形つや姫も調整売りが出始め、それぞれ前月比500円安。気配はさらに弱い。

令和3年産米の市中取引(令和4年4月末)

関東着値、包装込み、消費税抜き

産地	銘柄	等級	10/29 現在	12/28 現在	3/31 現在	4/28 現在	前月差	令和2年産との差		平成26年産との差	
								同期差	同期比	同期差	同期比
北海道	ゆめびりか	1等	12,700	13,000	13,900	14,000	100	▲1,600	90%	500	104%
青森	まっしぐら	1等	9,300	9,500	9,700	9,900	200	▲900	92%	1,200	114%
岩手	ひとめぼれ	1等	9,900	10,000	10,400	10,700	300	▲1,500	88%	400	104%
宮城	ひとめぼれ	1等	9,800	10,000	10,900	11,300	400	▲1,100	91%	900	109%
秋田	あきたこまち	1等	11,400	11,400	11,200	11,200	0	▲1,400	89%	600	106%
山形	つや姫	1等	17,500	17,800	17,600	17,100	▲500	400	102%	-	-
福島	会津コシヒカリ	1等	10,800	11,500	12,500	12,800	300	1,200	110%	1,600	114%
福島	中通りコシヒカリ	1等	9,800	10,000	10,200	10,400	200	▲1,000	91%	▲200	98%
茨城	コシヒカリ	1等	9,800	9,800	9,900	10,200	300	▲900	92%	▲1,000	91%
茨城	あきたこまち	1等	9,800	9,900	10,200	10,400	200	▲1,100	90%	400	104%
栃木	コシヒカリ	1等	9,900	10,100	10,100	10,200	100	▲1,000	91%	▲1,000	91%
栃木	あさひの夢	1等	9,000	9,200	9,200	9,300	100	▲1,400	87%	500	106%
千葉	ふさこがね	1等	9,000	9,300	9,600	9,600	0	▲1,100	90%	600	107%
新潟	魚沼コシヒカリ	1等	19,700	22,800	24,300	23,800	▲500	6,800	140%	3,600	118%
新潟	一般コシヒカリ	1等	14,300	14,500	13,800	14,000	200	900	107%	▲500	97%

【市中取引】特定の場所・期間・市場(いちば)を指さず、日本で流通しているあらゆるコメが取引対象。

【市中相場】200俵前後の取引単位での玄米60kg当たり価格(消費税抜き)。包装容器(紙・フレコン)によって差が生じる場合がある。特定の場所の出来値を指すわけではなく、当社が取材によって調べ、判断している。